平成３１年度　学校評価総括表　伊丹市立こうのいけ幼稚園

教育目標	豊かな心をもって、生き生きと遊ぶ子供の育成
重点目標	「愛」「自然」「主体性」のキーワードから保育の振り返りを行い、「やりぬく子供」「やさしい子供」「創り出す子供」を育む教育を推進する

項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	生きる力の基礎を育む	主体性の育み	・園内研究会を学期に 2 回程度実施し、研究協議を重ね、主体的な遊びが生まれる保育環境づくりを進める。 ・学期に１回程度、保育実践事例から保育を振り返り、環境構成や教師の援助のあり方を見直し、教職員の保育実践力を向上させる。 ・幼児が主体的に楽しく活動できる行事のあり方を考える。	・保護者アンケートにおいて、「幼稚園は、子供の発達や興味関心に応じた保育を行い、子供達の意欲や主体性が育まれるように努めている」「子供は、入園前よりも『自らめあてをもち、いきいきと遊ぶ子』に育っていると感じる」「幼稚園は、子供に経験させたい遊びを工夫して取り入れている」と回答した割合が、それぞれ 85%以上になる。 ・幼児の主体性を育む保育活動を推進する。 ・園内研究会や保育実践事例研究協議が計画的に行える。	A	・講師招聘園内研究会の実施、園内研究会の中での実践事例協議を学期に数回行い、保育の見直しや教師間での共通理解に努めた。また、他園研究会へも積極的に参加し、保育内容や方法の意見交流を行った。 ・「幼児の主体性を育む活動としての行事」のあり方について検討し、幼児の遊びや生活を基盤とした行事のあり方や活動内容を意識し、実践に取り組んだ。また、今年度の行事の取り組み方や内容を振り返り、教育課程の見直しを図った。 ・アンケート結果は三設問とも 95%以上の肯定的な回答があり、幼児の主体性を育む保育実践に努めていることが評価された。	・今後も幼児の主体性を育む保育活動のあり方を探り実践に努め、今年度見直した教育課程を実践し、次年度さらなる保育の充実に向け、改善を重ねていく。 ・園内研究会は、保育実践力を高めるよい機会となっている。今後も、園内研究会を全クラス、学期に 1～2 回程度行い保育の質の向上に努める。 ・教職員の保育実践力の向上を図るために、教育活動や幼児観を語り合う機会を日常的に取り入れていく。	・保護者アンケートの肯定的な回答の割合がとても高く、園の考えがきちんと受けとめられている。 ・それぞれの行事において、子供たちがやりたい事を先生方は理解し、それを出来るように努めて下さっているのが良く分かります。 ・保護者へのアンケートによる客観的評価において、其々高評価を得ているとともに、２月に参観した「劇遊び」において、特に４歳児の子どもたちが何十分もの劇を演じており、それぞれの子ども達の主体性、個性発揮を重要視された取組の結果であろうと評価する。 ・園児の主体性が大きく育ってきていることが、様々な場面で見てとれており、今後のさらなる育ちが楽しみである。 ・指導者の資質向上も図れており、保育の質の向上が期待できる。 ・継続して主体性を育む保育に向けた研修や実践を重ねてこられたことが、幼児の中にしっかりと育まれている。
		自然環境の活用	・園庭の自然環境を見直し、遊びや生活に必要な多種類の植物を取り入れる。 ・園庭環境を幅広く活用し、子供の遊びがより豊かになり五感を使って遊ぶことができるようにする。 ・草花、樹木、落ち葉等、身近な自然物を保育に取り入れたり、生き物が育つ環境を整備したりする。	・保護者アンケートにおいて、「幼稚園は、施設や設備を有効に活用し、遊びを通して学ぶ場として、子供が活動しやすい環境を整えている」と回答した割合が、それぞれ 85%以上になる。 ・自然物を遊びに使えるよう環境を構成し、生き物と触れ合う機会が多くなるよう、季節に応じた種まきや植樹や苗植等が計画的に行える。	A	・幼児が、遊びの中で四季折々の自然に興味をもち、手に取って触れ、いつでも遊びに使うことが出来るように環境整備を行った。また、自然物の生長の様子を観察、栽培することで、身近な環境に幼児自ら関わり発見を楽しむ、好奇心や探究心をもつ等、子供の育ちが見られた。 ・アンケート結果は、95%以上の肯定的な回答があり、園庭や身近にある自然を遊びに取り入れ、幼児の興味関心を広げ、豊かな体験が行えたと評価された。 ・季節に応じた種まきや植樹や苗植等が計画的に行えた。また、ウリ科やマメ科の植物が育つようアーチ状に栽培ネットを設置し、生長の様子が楽しく観察できるよう工夫した。自然環境を整えることで、蝶の幼虫やてんとう虫等の昆虫が育つ環境ができた。	・幼児が季節感を味わいながら、豊かな自然体験が行え、自然物の成長を通して命の育みや尊さを感じる体験や、花の色や匂い等感性豊かに育つ体験ができるよう、今後も園庭の自然環境の改善を継続し維持していく。 ・自然物を取り入れた様々な遊びが年間を通して展開されるよう、教師自身が自然に関する研修を積み重ね、環境構成を行う。 ・自然環境を活かした保育活動での幼児の育ち等について掲示板やクラスの保育ドキュメンテーション等で保護者啓発を行っていく。	・子供たちが生き物とふれ合える環境づくりは今後も進めていってほしい。 ・自然と触れ合うことの大切さをとても考えられていると思いました。 ・動物（うさぎ）を育てる環境や、虫や植物が多く、自然にふれる機会がたくさん有り、子供の心を育てる場としてはとても良い環境だと思います。 ・保護者へのアンケートによる客観的評価において、其々高評価を得ているとともに、参観ウイークの訪問時、「戸外遊び」において、幼稚園施設、設備を活用した園庭、樹木、そして落ち葉の自然化に取組み、子供たちの創造醸成に寄与されていることに対し評価する。更に四季の野菜の栽培とそれらを食したり、テントウ虫、カブト虫、バッタ、柑橘植物に寄生するアゲハ蝶などの昆虫類も園内に生息させたりしていく取り組みは素晴らしいと感じた。 ・生き物や草花が意図的、計画的に整備されており、子供たちの感性等、豊かな心の形成に大きく寄与している。 ・幼児が五感で体験できる環境を意図的、計画的に構成されている。
	一人一人を大切にする教育	ユニバーサルデザイン化	・個別な支援を必要とする幼児だけでなくすべての幼児の育ちや課題等についての情報交換を行い、職員間で支援や指導の方向性の共通理解を図る。 ・必要に応じて、巡回相談や専門機関等、外部機関との連携を図る。 ・学期に 1 度以上、関係保護者に個別指導計画の開示及び個人懇談を行う。	・保護者アンケートにおいて、「幼稚園は、個々の発達や特性に応じた指導を行い、ひとりひとりを大切にした教育を行っている」「子供は、入園前よりも『人を大切にし、よさや違いを認め合い育ち合う子』に育っている」と回答した割合が、それぞれ 85%以上になる。	A	・幼児一人一人の家庭環境・生活体験の違いや発達の特性を理解するため、職員間で幼児の発達の捉え方や日々の情報交換に努めた。そして、幼児が抱えている発達の課題に応じた指導や援助の方向性を共有し、実践した。支援や教育的ニーズを有する幼児に対しては外部の専門機関と連携し、意見を仰ぎ、個の特性や発達に応じた指導計画を立て、支援に努めた。 ・アンケート結果は、両設問ともに 95%以上の肯定的な回答が得られた。一人一人を大切にし、幼児同士が認め、支え合うことのできる環境や関係づくりの育みを評価された。	・幼児の発達に即した教材の選択・環境の構成を考えるとともに、教育的ニーズを有する幼児に限らず、分かり易い支援や教材の工夫等環境のユニバーサルデザイン化の創意工夫に取り組む。 ・支援が必要な幼児に対して園全体で共通理解し、引き続き専門知識や見地が身につくよう研修に参加する。 ・外部の専門機関と協力し合い、長期的な目標と見通しをもち、個々に合った援助の計画を立て、職員間で共通理解を図る。	・外部の専門機関との連携は大切なことだと感じます。 ・幼児一人一人の個性を大切にしながら、その個に合った支援や教育をされているのがとても伝わってきた。 ・支援が必要な子に対して、過剰に接しすぎていない。必要な時のみ、支援ができているように思う。 ・保護者へのアンケートによる客観的評価において、其々高評価を得ているとともに、とりわけ園児全体の最大公約数的な取り組みではなく、一人ひとりを大切にした最小公倍数的な取り組み、即ちユニバーサルデザイン化に意を注がれ、重要視されている事は評価できる。バリアーフリーの時代からユニバーサルデザインの時代への脱皮が今、必要である。 ・子供たちの発達の状況に応じた対応や支援がなされており、特別支援教育が推進されている。 ・日常的な職員間の話し合いだけでなく、専門機関との連携も行われ、一人一人を大切にする保育がなされている。
豊かな心・健やかな体	思いやりの心の育成	生命の尊重・道徳性の芽生え	・動植物の飼育栽培活動を年間通じて行ったり、誕生会等で生命や生きることについて考えたりする等、折にふれて、命の大切さや温かさに気付かせていく。 ・幼児が思いやりをもち、他者の気持ちや考えに気付けるよう、協同的な遊びを計画的に保育活動に取り入れる。また、そのための教師の力量を高める。 ・教師自身の道徳性を常に磨き、人権意識を高める。 ・兵庫県人権教育研究大会阪神地区大会に参加し、「子供の自己肯定感や相手を思いやる心を育む」保育事例の発表を行う。	・保護者アンケートにおいて、「幼稚園は、誕生会や飼育栽培活動、身近な自然環境を取り入れた保育活動等、命にふれる機会を設け、命の大切さを感じさせている」「幼稚園は、自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えている」「子供は、入園前よりも『自分を大切にし、友達や命あるものに思いやりをもったやさしい子』に育っていると感じる」と回答した割合が、それぞれ 85%以上になる。 ・教師が年間 1 回以上人権研修会に参加する。 ・兵庫県人権教育研究大会阪神地区大会で参加者から肯定的な意見を得る。	A	・幼児が誕生会の中で、命のつながりや両親や周りの大人から愛され育まれている命の大切さに気付く機会を設けた。 ・主体的、協同的な遊びを中心に、幼児の他者を大切にする心の育みに努めた。また幼児が命にふれたり、生きることについて考えたりする機会を計画的に保育に取り入れ、実践した。 ・人権研修会に年間 1 回以上参加し、教師自身の意識改善に努めた。アンケート結果は両設問共に 95%以上の肯定的な回答が得られ、生命の尊重や互いを思いやる道徳性の芽生え、自己肯定感が培われていると評価された。 ・兵庫県人権教育研究大会阪神地区大会で、参加者からは、「幼児が自分の考えを友達に受け止められ共有できる喜びを得ている」「幼児は自分が友達や教師からありのままの姿を受け入れられている」「幼児は自分の存在を価値あるものとして肯定する気持ちを大切にしている」等と、発表内容に対して共感する意見や肯定的な意見を得ることができた。	・今後も幼児一人一人が、自分が大切な存在であることや、ありのままの自分を受け入れてもらえる体験ができるような保育の実践に取り組む。 ・誕生会では命の大切さを感じ、幼児一人一人が「自分は愛され育てられている」意識がもてるような話を取り入れることを継続していく。 ・動植物の飼育栽培活動をし、命の育みを実感できる環境作りを引き続き行う。 ・教師自身が生命尊重の精神と道徳観を磨き、幼児のモデルとなったり、日常で折にふれたりしていく。 ・教師自身の道徳性を磨き、人権意識を高めるため研修会に積極的に参加する。また、日々の保育活動で人権意識をもった言葉がけや保育活動に努めていく。	・今後も幼児一人一人が、自分が大切な存在であることや、ありのままの自分を受け入れてもらえる体験ができるような保育の実践に取り組むということは、とても大切だと感じます。 ・自分を大切にし、友達や命あるものに思いやりをもつことの大事さを幼児に考え、気付かせる機会を設けていると思いました。（A 評価） ・動物（うさぎ）を育てる環境や、虫や植物が多く、自然にふれる機会がたくさん有り、子供の心を育てる場としてはとても良い環境だと思います。 ・保護者へのアンケートによる客観的評価において、其々高評価を得ているとともに、幼児の他者を大切にする心を育むことはもとより、今社会から求められている子供たちの自己肯定感の醸成への取り組みに大いに努力をされている事に対し評価する ・様々な教育活動をとおして、園児の道徳性を育てるアプローチがなされており、「命の大切さ」や「他者への思いやり」等が育まれている。 ・主体的、協同的な遊びを支えることや、命の育みを感じられるような園内環境の整備などが、思いやりの心の育ちにつながっていることが窺えた。
	健やかな体作り	基本的生活習慣の確立	・幼児が自分の体について関心をもつよう月 1 回保健指導を実施する。 ・年間 10 回、親子で取り組む「げんきカレンダー」を実施する。 ・保護者啓発として月 1 回「ほけんだより」を発行する。 ・幼児の食への興味関心をひろげ様々な味覚と出会う機会となるよう、月 1 回以上収穫物を食べる経験を取り入れる。	・保護者アンケートにおいて「『ほけんだより』や親子で取り組む『げんきカレンダー』は、健康な生活を意識する機会となっている」「子供は、入園前よりも「基本的生活習慣や健康な生活について、意識をもち自ら取り組もうとする姿」が見られるようになったと感じる」と回答した割合が、それぞれ 85%以上になる。	B	・保健指導と「げんきカレンダー」の実施、「ほけんだより」の発行等は、それぞれ計画通りに行えた。「げんきカレンダー」に毎日取り組むことへの意識付けのために、ごほうびシールやスタンプを押すことを取り入れたことで、意欲的に取り組む姿が見られた。 ・アンケート結果で 93%以上の評価が得られ、基本的生活習慣の確立に向けた保育実践が評価された。 ・月 1 回以上収穫物を食べる経験を取り入れることができ、食への興味をもつことができた。	・今後も「ほけんだより」「げんきカレンダー」を通じて生活習慣や健康に関する情報等を周知し、親子で楽しく取り組める内容を工夫し幼児の生活習慣の確立を目指す。 ・自分の体について、生活習慣の必要性を伝える場となる保健指導の内容や時期について、今後も園児の実態に合わせて再検討し実践を継続していく。	・月１回以上収穫物を食べる経験を取り入れることができ、食への興味をもつことができたということはよい取組だと思います。衛生面、安全面（アレルギー等）に配慮して今後も取り組んで下さい。 ・幼児が健康生活を自ら意識する機会をしっかり作ってくれていると思いました。（A 評価） ・保健の話は、子供たちでも分かりやすいようで、げんきカレンダーがそれとタイアップして、実施されているのも良い。 ・保護者へのアンケートによる客観的評価において、其々高評価を得ているとともに、月１回の保健指導、年間１０回の親子で取り組む「げんきカレンダー」によって幼児の基本的生活習慣の確立に取り組まれ、月１回以上収穫物を食し、様々な味覚と出会える機会を持っていること等に対し評価する。 ・保護者への啓発や園児への意識づけにより、見事に生活習慣が確立され、身体の健やかな成長につながっている。 ・幼児の実態から課題を見つけ、幼児自らが継続して取り組めるような教材研究を行い、実践につなげている。
開かれ信頼される学校園	教育活動への理解の推進	園情報の積極的な発信	・月 1 回保育参観、年 3 回の参観ウィークを実施する。 ・日頃の様子や行事についてホームページを更新し（月 2 回以上）、写真等で、積極的にかつ継続的に園の情報を発信する。 ・ドキュメンテーション（月 1 回以上）を活用し教育活動の可視化を図る。 ・月 1 回以上のクラスだより、学期に 1 回の園長だよりを発行する。 ・掲示板を月 1 回更新する。	・保育参観や参観ウィークが計画的通り実施できる。 ・ホームページの更新、掲示板やドキュメンテーションの掲示を計画通りに行える。 ・保護者アンケートにおいて、「保育参観や学級懇談、参観ウィークなどは、お子さんの幼稚園での様子を知るよい機会となっている」「園だよりやクラスだより、ホームページや掲示ボード、ドキュメンテーション等は、幼稚園での行事や活動の様子、園の教育方針、子供の学びや育ち等を知るのに役立っている」と回答した割合が、それぞれ 85%以上になる。	B	・保育参観、参観ウィーク、クラスだより、園長だより、掲示板、それぞれ計画通りに行えた。ホームページも月２回以上更新し、積極的かつ継続的に園情報の発信が行えた。また園だよりを 2 ヶ月単位で発行し、園外にも掲示することで、園の取り組みを地域に発信する一端となった。 ・ドキュメンテーションや掲示板には、写真とともに幼児の育ちや学びを書き添えて定期的に掲示を行い、保護者や地域への教育活動の発信や理解につながった。 ・アンケート結果は、両設問ともに 95%以上の高い評価が得られると共に、アンケートの記述から、主体性を育む教育活動に対して高評価が得られた。	・引き続き、様々な手法を活用し、タイムリーな園情報を積極的継続的に発信していく。ドキュメンテーションは、今度も幼児の育ちや学びを捉え、教育活動の可視化に努めていく。 ・ホームページでは行事だけでなく、日頃の様子も積極的に更新し、教育活動のさらなる理解につなげていく。 ・参観ウィークを今後も計画して教育活動を公開することで、幼稚園教育に対する理解を促進していく。また、教育活動を未就園児保護者にも積極的にＰＲしていく。	・発信という面ですばらしい取り組みだと思います。業務がふくらみすぎないようにしながら、継続させてほしいと思います。 ・普段の園生活の様子を掲示板や保育室のドアに貼ってあり、参観以外での子供の様子を知れてとても良い。 ・掲示板などでも、園の様子が見られて、園内外問わず、どんな幼稚園なのか、普段の様子が知れて、良いと思います。 ・保護者へのアンケートによる客観的評価において、其々高評価を得ているとともに、既にホームページが開設されており、リアルタイムの情報を提供することが出来る利便性の高いツールではあるものの、その更新には時間とマンパワーが必要である。幼稚園業務をこなしながら目標である月２回以上の更新を実現され、タイムリーに情報提供されている事は評価できる。 ・積極的に園情報を発信しており、保護者による園理解が進んできている。 ・タイムリーにドキュメンテーションを発行することで、保護者や地域の方と、幼児の育ちや学びを共有することができている。
	安心で安全な園作り	危機管理の徹底	・年度当初に学校安全計画、事件事故への対応マニュアル及び防災計画、洪水時の避難確保計画を職員全員で確認する。 ・年に５回避難訓練（洪水、火災、地震、防犯）・通報訓練（火災、県警ホットライン）を実施する。 ・一斉メールを活用した緊急時の保護者への連絡と引渡しの訓練を実施する。 ・月 1 回安全点検を実施し破損や危険箇所（設備、害虫等）があれば速やかに対応・改善する。	・計画と幼児の実態に即して園児への安全指導（幼年消防クラブ活動、交通安全指導含む）を行う。また年５回避難訓練及び通報訓練を実施し、反省点を踏まえてマニュアルや各計画を見直す。 ・保護者への連絡と引渡しの訓練を実施し、実情に応じた対策を検討する。 ・破損や危険箇所の改善に向け迅速な対応が行える。 ・保護者アンケートにおいて、「幼稚園は、施設や設備を有効に活用し、遊びを通して学ぶ場として、子供が活動しやすい環境を整えている」と回答した割合が、85%以上になる。	B	・安全指導、避難訓練、通報訓練を計画通りに実施した。また折に触れ、幼児への指導も行い、幼児自身の安全意識が身に付くよう努めた。 ・一斉メールを活用した保護者連絡や引渡し訓練を実施した。即座にメールが受信されない家庭もあり、緊急時においてはメール配信だけでなく他の連絡手段（個別に電話等）も必要となることがわかった。 ・毎月の安全点検で改善が必要な箇所が発生した際には即対応し、安全な園作りに努めた。 ・アンケート結果は、95%以上の肯定的な回答があり、安心で安全な園として評価された。 ・危機管理の視点で事案検証したことで、職員組織としての危機管理意識と能力に様々な課題があることがわかった。	・安全指導計画、事件事故への対応マニュアル及び防災計画、洪水時の避難確保計画を職員全員が把握し安全意識を強化する。 ・定期的に実際を想定した各訓練を実施し、職員の連携と対応等の検証を行い、危機管理意識と対応能力の向上に努める。 ・月 1 回の安全点検では、今後も安全面をしっかりと細部まで確認していく。 ・安全管理、危機管理に関して、予想される事案を挙げ、講ずべき具体策を月１回共有化し、職員組織全体の意識と能力の向上に努める。	・一斉メールは有効な手段であると思うので、受信できない原因を克服する方法を市教委に取り組んでもらいたい。 ・３歳児保育に伴い、フェンスの設置も決まって、安全にはなっていると思います。 ・安心・安全に係る対策は、多くは予測できない状況から突如生じる危険に対し、如何に行動が取れるかに係っており、それを補足するには、危機管理の為の意識の向上、体験、訓練が重要であり、年５回の避難訓練及び通報訓練、一斉メールの活用等職員の安心・安全への取り組みに対し評価をする。 ・園児の安全を第一に、組織化された危機管理体制が構築されており、安心して園児を預けられる幼稚園になってきている。 ・安全管理や危機管理における対策や訓練などがしっかりと行われていた。来年度から始まる３歳児保育における対策も、更なる細やかな視点で対応していってほしい。

学校関係者評価総括

・幼児が成長するために大切な事をとても考え、実行し、安全な園作りをしていることがすごく伝わってきて良かった。
・子供にとって良い環境なのは、間違いないと思います。
・上記のとおり重点目標の各項目における重点項目について、総じて肯定的評価をさせて頂いたところであり、今後も改善工夫を凝らしての取り組みに期待をいたします。なお、何時も申上げるところですが、幼稚園業務において、多忙極まりない様子が見て取れる中、今後とも園内での各事業別評価を職員全員で意見交換され、先例踏襲も必要なことかもしれませんが、新たな取り組み、不必要な事業の見直しなど、スクラップ・アンド・ビルドの方針で業務改善が行われることが肝要かと思います。
・教職員が連携して幼児の実態に即した保育を創り出そうと日々研鑽されている。また、園の教育活動をタイムリーに啓発しておられ、保護者と共通理解しながら温かい保育が展開されている。

次年度に向けた重点的な改善点

・３歳児の登降園方法について、グループ登園の場合の付添いの人数をどうするのか？安全対策？もしくは個人登園なのか？
・仕事は楽しく、遣り甲斐を持って取り組むことが、ひいてはその対象となる子供たちへ効果が大きくなるものと思われます。いま、「働き方改革」への取り組みを積極的に行おうと各分野において議論されておりますが、幼稚園においても例外ではなく、更に来年度より３歳児保育をも展開される事となっており、やれば際限なく広がる仕事を、大胆に抑えていくことも大事かと思います。なかなか数値では表せないものの、今やっている仕事量を何%カットするとか、労基法でいう１日の労働時間８時間からの超過勤務時間月４５時間以内、先生方には一丸となって、そして英断を持って取り組んでもらいたいものです。
・３歳児保育や預かり保育などの新しい取り組みが始まる中で、更なる教職員間や保護者との連携を強化しつつ、公立幼稚園ならではの保育を継続していってほしい。

自己評価の基準　　Ａ：目標を上回った　Ｂ：目標どおりに達成できた　Ｃ：目標をやや下回った　Ｄ：目標を大きく下回った